

平成28(2016)年度学部卒業生フォローアップ調査結果

〈調査概要〉

目的：寄せられた意見を今後の広島大学の教育・研究の改善に活かし、優れた人材育成に繋げていく。

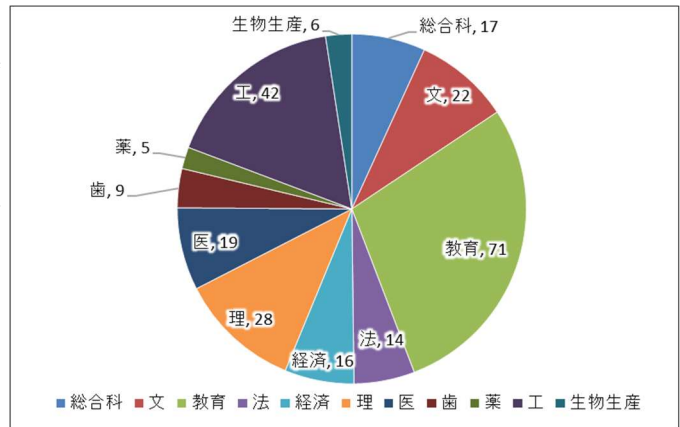
対象：平成28年(2016)年度学部卒業生

方法：校友会登録メールアドレス・校友会登録住所・入学時の家族住所あて調査票を送付しWeb回答。

期間：令和4年12月28日～令和5年2月28日

状況：発送数2,471, 未達数194, 回収数249, 有効数249, 回収率10.94% (前年度回収率13.37%)

内訳：総合科学部17, 文学部22, 教育学部71, 法学部14, 経済学部16, 理学部28, 医学部19, 歯学部9, 薬5, 工学部42, 生物生産学部6, 無回答0

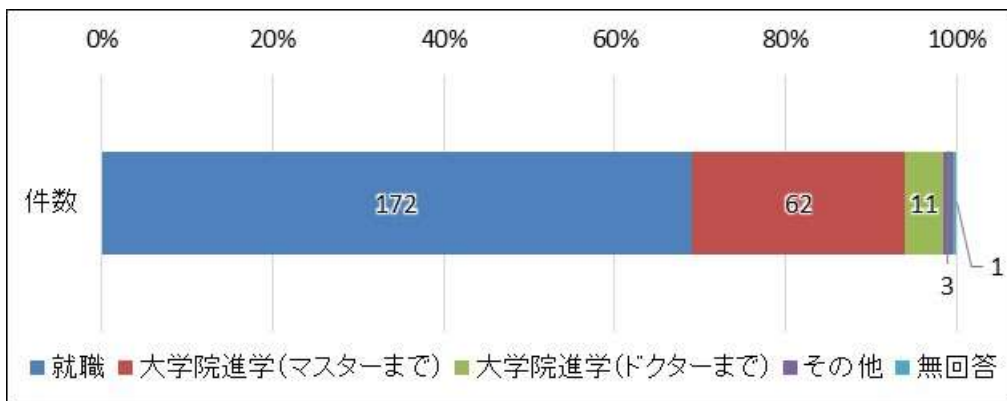


〈調査結果〉

【質問】4. 学部卒業後の進路

1. 就職
2. 大学院進学 (マスターまで)
3. 大学院進学 (ドクターまで)
4. その他

【結果】



フォローアップ調査_2016 年卒

【質問】 5. 大学生生活全般の下の項目は、現在どの程度役に立っていますか？

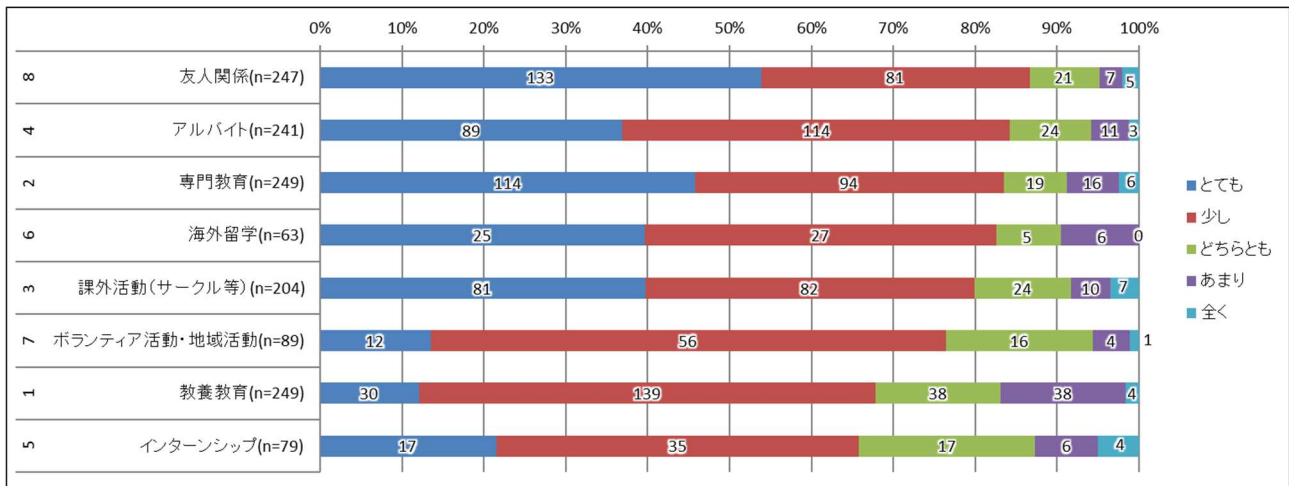
1. 教養教育, 2. 専門教育, 3. 課外活動（サークル等）, 4. アルバイト, 5. インターンシップ, 6. 海外留学, 7. ボランティア活動・地域活動, 8. 友人関係

【結果】（高評価の割合順）

※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

※H28(2016)年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



最も評価が高い項目は、1位「8. 友人関係」（86.6%）、2位「4. アルバイト」（84.2%）、3位「2. 専門教育」（83.5%）、4位「6. 海外留学」（82.5%）の順となった。

今回、記述の中で全体的に「コミュニケーション」「人間関係」「アルバイト」「友人」というキーワードで役立っているという記述が多く見られたことから、1位「8. 友人関係」、2位「4. アルバイト」という評価につながったと推察される。

また3位「2. 専門教育」、4位「6. 海外留学」についても、その経験を題材にして多様な人とのコミュニケーションに役立っているというような記述が散見された。

総評として、大学での経験がその後のコミュニケーションに非常に役立てられているということがわかる。

フォローアップ調査_2016 年卒

(6. 学士課程教育について (1) 教養教育)

【質問】(1) 教養教育の下の項目は、現在どの程度役に立っていますか？

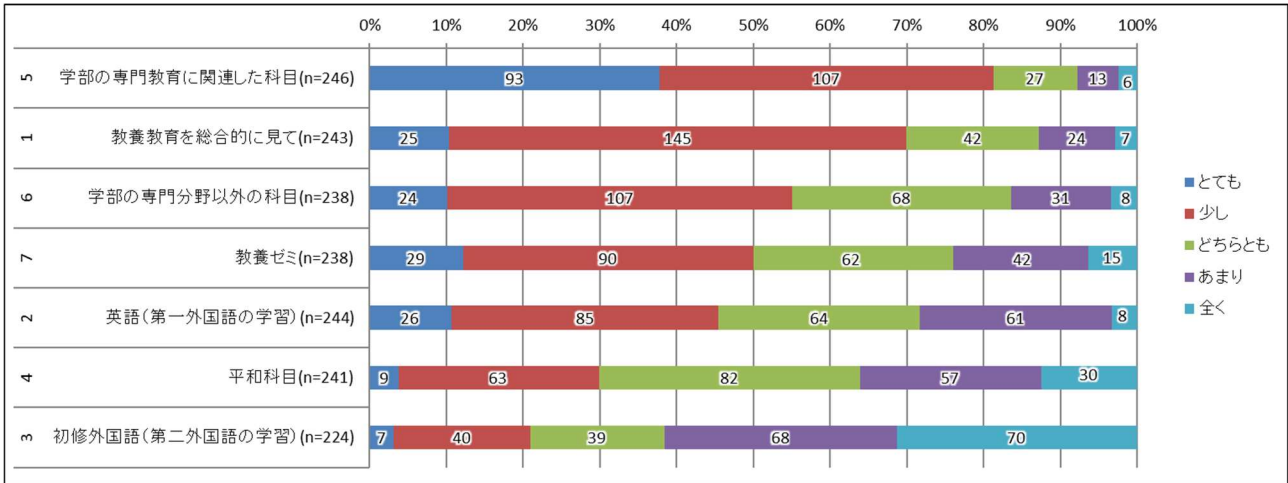
1. 教養教育を総合的に見て, 2. 英語 (第一外国語の学習), 3. 初修外国語 (第二外国語の学習), 4. 平和科目, 5. 学部の専門教育に関連した科目, 6. 学部の専門分野以外の科目, 7. 教養ゼミ

【結果】(高評価の割合順)

※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

※H28 (2016) 年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



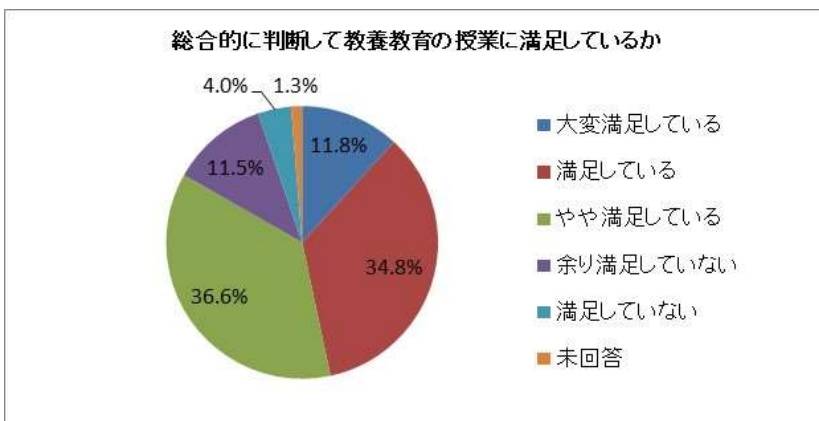
最も評価が高い項目は、1位「5. 学部の専門教育に関連した科目」(81.3%)、2位「1. 教養教育を総合的に見て」(69.9%)、3位「6. 学部の専門分野以外の科目」(55.0%)、4位「7. 教養ゼミ」(50.0%)の順となった。

今回、記述でよく見られたのは「…しておけばよかった」と言う言葉であった。全体的には専門教育や教養教育が社会生活での土台となっているようだが、高評価である一方で「より深く幅広く」学んでおきたかったと言う意見が多く見られた。

卒業生がそれぞれ専門的な就職先で学んだことを活かしている一方で、在学時を振り返り学習が不足していたと実感しているようだ。

【参考】平成 28 (2016) 年度卒業時アンケート結果『設問：総合的に判断して教養教育の授業に満足しているか』

(「大変満足している・満足している・やや満足している」の割合 83.2% (1281/ 1539 名※未回答除く))



フォローアップ調査_2016年卒

(6. 学士課程教育について (2) 専門教育)

【質問】(2) 専門教育の下の項目は、現在どの程度役に立っていますか？

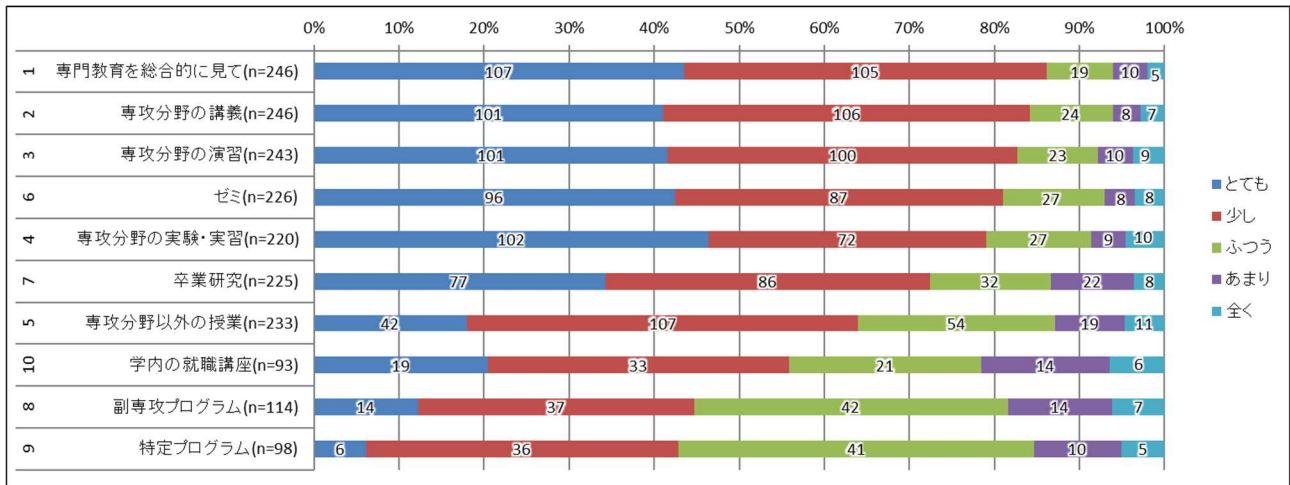
1. 専門教育を総合的に見て, 2. 専攻分野の講義, 3. 専攻分野の演習, 4. 専攻分野の実験・実習, 5. 専攻分野以外の授業, 6. ゼミ, 7. 卒業研究, 8. 副専攻プログラム, 9. 特定プログラム, 10. 学内の就職講座,

【結果】(高評価の割合順)

※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

※H28(2016)年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



最も評価が高い項目は、1位「1. 専門教育を総合的に見て」(86.1%)、2位「2. 専攻分野の講義」(84.1%)、3位「3. 専攻分野の演習」(82.7%)、4位「6. ゼミ」(80.9%)の順となった。

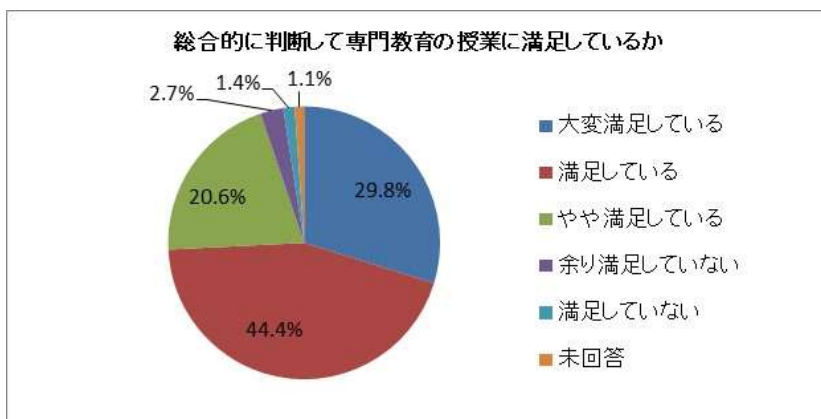
今回の評価をみて専攻分野の学習がとても役立っていることがわかる。各学部とも専門職へ就職した後、大学で学んだことがそのまま活かしているという記述が多く見られた。

一方で教育学部では、大学での学習と実際の業務でギャップを感じる人もいたようだ。基礎的な事は通用するものの、より幅広い知識が求められるようで大学では特に重要視していなかった分野を就職後に必要と感じたという意見が見られた。

総評としては、「自分のためになっている」「役立っている」「活かしている」という意見が多かったので、上記のような項目が高評価に繋がっているようだ。

【参考】平成28(2016)年度卒業時アンケート結果『設問：総合的に判断して専門教育の授業に満足しているか』

(「大変満足している・満足している・やや満足している」の割合 94.8% (1459/1539名※未回答除く))



フォローアップ調査_2016 年卒

(7. 学生支援について)

【質問】 学生対応・支援で下の項目はどの程度、充実していましたか？

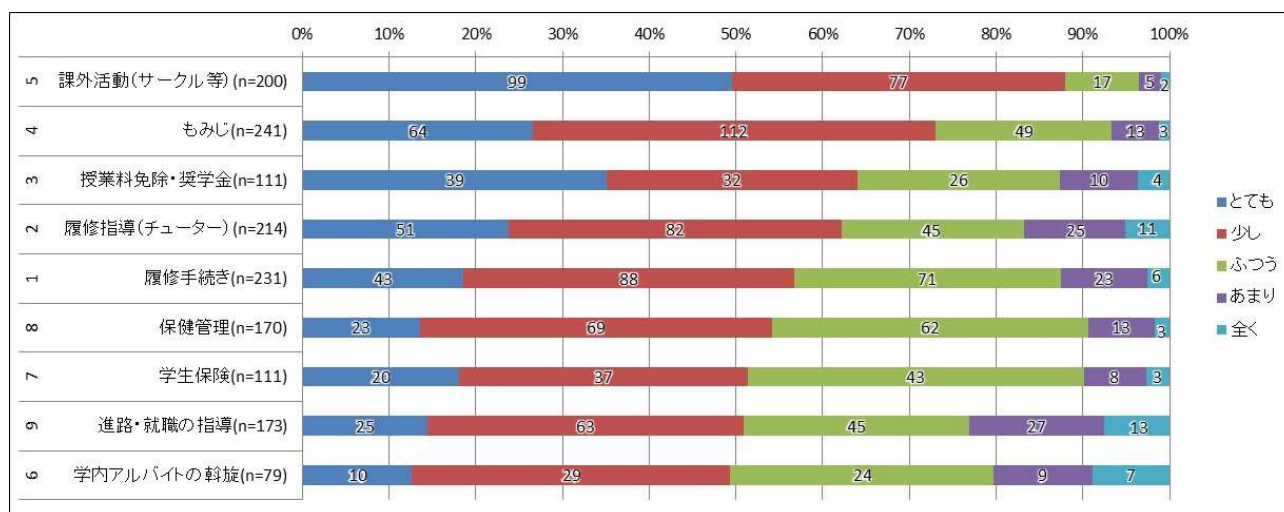
1. 履修手続き, 2. 履修指導 (チューター) , 3. 授業料免除・奨学金, 4. もみじ, 5. 課外活動 (サークル等) , 6. 学内アルバイトの斡旋, 7. 学生保険, 8. 保健管理, 9. 進路・就職の指導

【結果】 (高評価の割合順)

※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

※H28 (2016) 年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



最も評価が高い項目は、1位「5. 課外活動 (サークル等)」(88.0%)、2位「4. もみじ」(73.0%)、3位「3. 授業料免除・奨学金」(63.9%)、4位「2. 履修指導 (チューター)」(62.1%) の順となった。

今回の記述の中で、1位の「5. 課外活動 (サークル等)」に触れたものは殆ど無かった。その代わりに、2位「4. もみじ」や3位「3. 授業料免除・奨学金」についての意見が多く見られた。大学生活や就職活動においてこれらの支援をかなりの生徒が活用しているようである。中でも保健管理センターやチューターへの感謝する意見が大変多かった。

一方で、就職支援については不満意見もあった。他の名立たる大学と比べ就職活動において大きな差を感じる事があったようで、情報やパイプをより強化して欲しいという意見が見られた。

フォローアップ調査_2016 年卒

(8. 学生生活について (1))

【質問】(1) 下のような各項目は、学生時代のあなたにどの程度あてはまりますか？

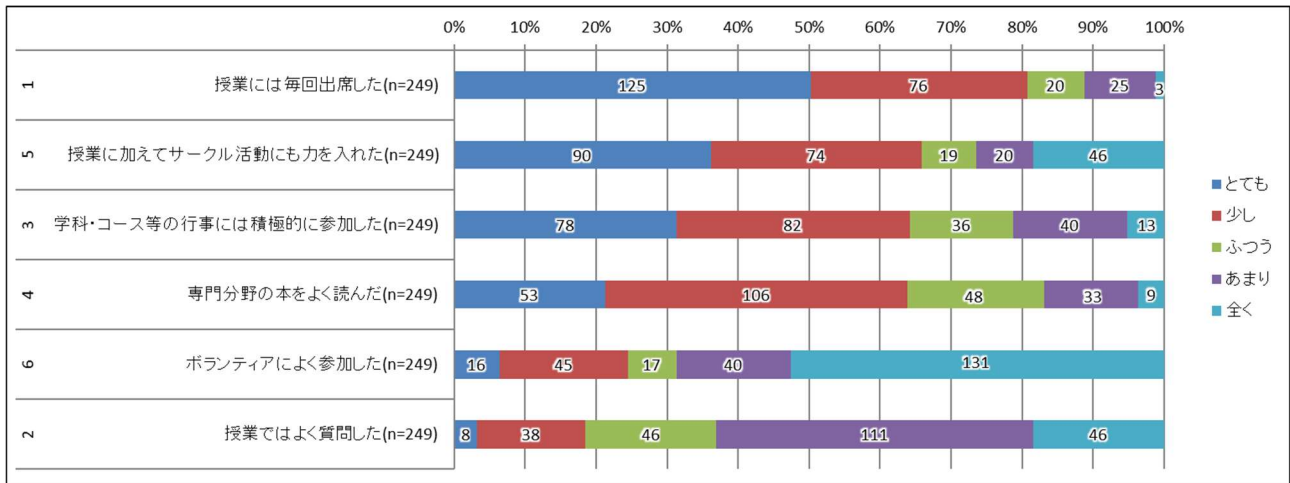
1. 授業には毎回出席した
2. 授業ではよく質問した
3. 学科・コース等の行事には積極的に参加した
4. 専門分野の本をよく読んだ
5. 授業に加えてサークル活動にも力を入れた
6. ボランティアによく参加した

【結果】(高評価の割合順)

※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

※H28(2016)年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



最も評価が高い項目は、1位「1. 授業には毎回出席した」(80.7%)、2位「5. 授業に加えてサークル活動にも力を入れた」(65.8%)、3位「3. 学科・コース等の行事には積極的に参加した」(64.2%)、4位「4. 専門分野の本をよく読んだ」(63.8%)の順となった。

今回の記述では、講義を中心に積極的な参加をしたと言う内容が多く見られた。評価の高い項目の通り、様々な活動に取り組んだ結果、充実した学生生活を送れたようだ。

しかし、中には通学環境の違いで参加できなかったり、当時熱中していた事があり参加機会を失ってしまったと言う後悔した意見も散見された。

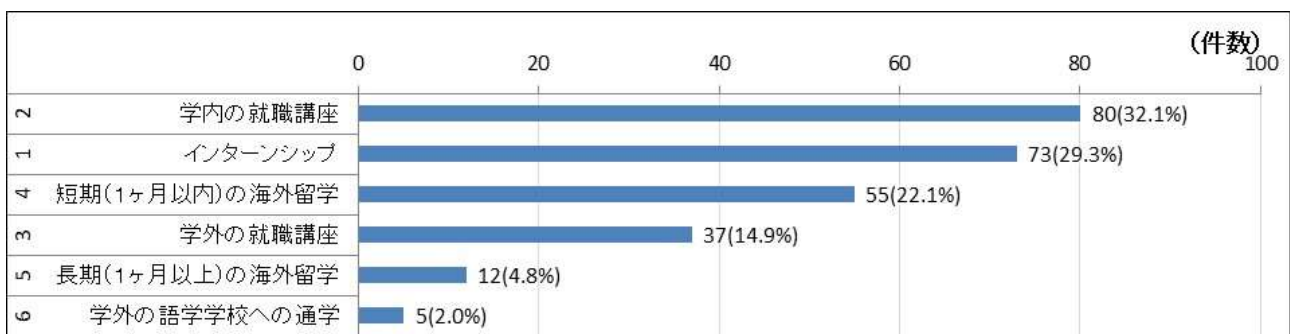
総評としては、失敗も後悔も概ね良い経験として学生生活に満足しているという旨の意見が多かった。

(8. 学生生活について (2))

【質問】(2) あなたは次のような活動に参加しましたか。該当するものすべてに○をつけてください。

1. インターンシップ
2. 学内の就職講座
3. 学外の就職講座
4. 短期(1ヶ月以内)の海外留学
5. 長期(1ヶ月以上)の海外留学
6. 学外の語学学校への通学

【結果】(該当数の多い順)



フォローアップ調査_2016 年卒

(8. 学生生活について (3))

【質問】(3) あなたが現在の学生にアドバイスをするとしたら、次のような大学時代の学習や経験をどの程度おすすめですか。

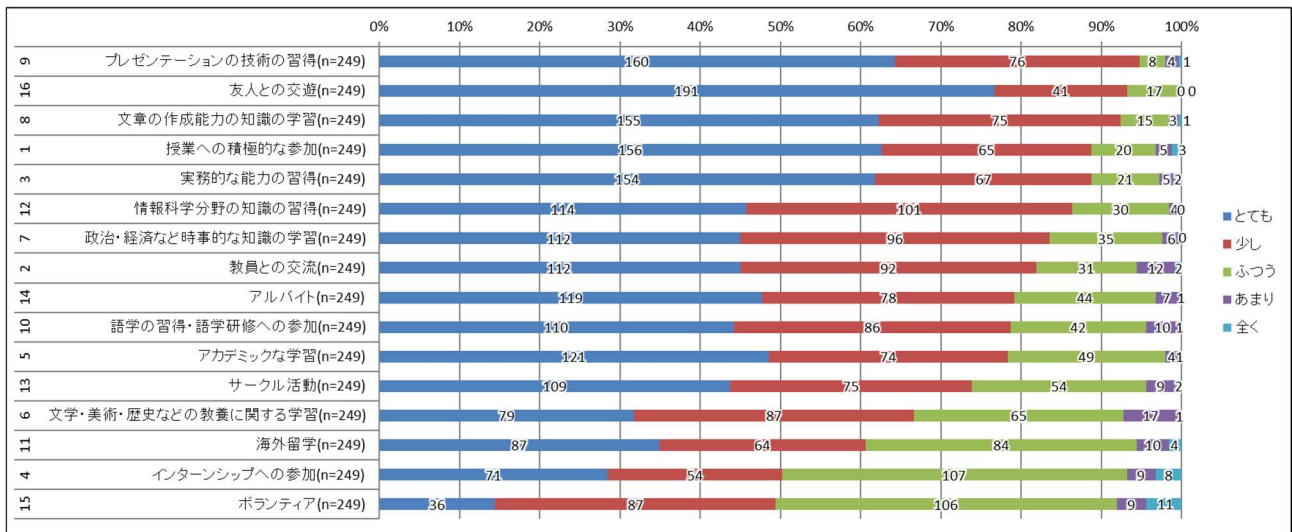
1. 授業への積極的な参加, 2. 教員との交流, 3. 実務的な能力の習得, 4. インターンシップへの参加, 5. アカデミックな学習, 6. 文学・美術・歴史などの教養に関する学習, 7. 政治・経済など時事的な知識の学習, 8. 文章の作成能力の知識の学習, 9. プレゼンテーションの技術の習得, 10. 語学の習得・語学研修への参加, 11. 海外留学, 12. 情報科学分野の知識の習得, 13. サークル活動, 14. アルバイト, 15. ボランティア, 16. 友人との交遊

【結果】(高評価の割合順)

※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

※H28(2016)年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



最も評価が高い項目は、1位「9. プレゼンテーションの技術の習得」(94.7%)、2位「16. 友人との交遊」(93.1%)、3位「8. 文章の作成能力の知識の学習」(92.3%)、4位「1. 授業への積極的な参加」「3. 実務的な能力の習得」(88.7%)が同率となった。

今回の結果では、半数の項目で80%以上の高評価が出ている。その中でも上位の項目に見られるように自己表現をすることを重要視する意見が多く見られた。特に「コミュニケーション」については学習だけでなく、大学生活内の様々な場面において養われることが語られていた。多くの卒業生が大学生活内で培ったコミュニケーション能力を卒業後に活かしていることがわかる。

また、勉強だけでなく様々な分野に積極的に取り組むようアドバイスをしている記述も多くあった。高評価の上位には入っていないもののサークル活動やアルバイト、多様な人との交流などを通じて人生経験を積み社会生活に活かしているという記述も目立った。